



東京歯科大学広報



井出学長より徽章を授与される新入生代表常泉健太君：平成24年4月5日（木）、千葉校舎講堂

平成24年度東京歯科大学入学式

平成24年度東京歯科大学入学式が、平成24年4月5日(木)午後1時より、千葉校舎講堂において、金子 譲理事長、井出吉信学長をはじめ法人役員、大学役職者、教職員、父兄会役員及び同窓会役員、新入生保護者が出席して挙行された。



2012年4・5月

254号

本号の主な内容

- ・平成24年度東京歯科大学入学式 1
- ・「医学研究に関する倫理」講習会開催 13
- ・平成24年度大学院歯学研究科入学式 15
- ・第5回日中歯科医学大会2012開催報告 19
- ・平成24年度歯科衛生士専門学校入学式 25

式は佐藤 亨学生部長の開式の辞で始まり、本学管弦楽部現役部員およびOBによる校歌演奏と混声合唱部の合唱に続いて国歌を斉唱した後、河田英司教務部長が新入生128名と第2学年の編入学生5名を一人ずつ呼名して紹介が行われた。

次いで井出学長から訓辞、金子理事長から祝辞



訓辞を述べる井出学長：平成24年4月5日（木）、千葉校舎講堂

が述べられ、新入生代表の神坂雪乃さんが凛とした宣誓を行い、新入生代表の常泉健太君に井出学長から徽章が手渡された。常泉君はスーツ左襟に徽章を着装して、会場の新入生、保護者、教職員に披露した。最後に出席者全員で校歌を斉唱し、滞りなく入学式を終了した。



祝辞を述べる金子理事長：平成24年4月5日（木）、千葉校舎講堂



新入生を代表して「宣誓」する神坂さん：平成24年4月5日(木)、千葉校舎講堂



井出学長の訓辞を聞く新入生：平成24年4月5日（木）、千葉校舎講堂

訓 辞

東京歯科大学

学 長 井出 吉信

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。東京歯科大学は、皆さんを心から歓迎し、お祝いを申し上げます。また、保護者の皆様の方ならぬお慶びを拝察いたし、重ねてお祝いを申し上げます。

本学の歴史は、創立者 高山紀齋先生が1890年（明治23年）にわが国最初の歯科医学教育機関となる「高山歯科医学院」を設立したことに始まります。創立以来120年を有に超えた本学は、これまでに培った確かな実績のもとに、最先端の教育・研究・診療を行っております。常にわが国の歯科医学・歯科医療を牽引しながら、新しい知識と技術を学生に教育し、最新の医療を提供することで、国民から信頼される歯科医学教育機関として、社会的使命を實踐していると考えております。

本学の確かな教育力はこれまでの高い歯科医師国家試験合格率に示されており、この2月に実施され

た歯科医師国家試験結果では全国29歯科大学・歯学部のトップに輝きました。しかし本学の教育の特色は、建学の精神である初代校長 血脇守之助先生が説いた、「歯科医師たる前に人間たれ」にのっとり、歯科医師としての知識や技術だけでなく、社会性を身につけ、人間的に優れた歯科医療人を育成していることにあります。

また、グローバル化が急速に進む中、歯科大学としても国際的感覚を身につけた歯科医師を育てるべく、在学中から国際的視野を養うためのプログラムの一環として、昨年度から各学年の成績優秀者が海外の姉妹校で短期研修を行う、エレクトティブ スタディ 研修制度をスタートさせました。このような海外研修での経験は、皆さんの学生生活を更に充実させることとなりますので、是非頑張ってくださいと思います。

現在、東京歯科大学は創立120周年の記念事業として、千葉校舎から水道橋校舎へ大学中枢機能の移転を進めています。また、水道橋一帯は古くから文教地域として、大学や研究施設、文化施設等が集まっており、多くの交流や情報に触れることができる場所です。こうしたロケーションが皆さんの学びの拠点となります。

本学はこれまで、高山歯科医学院の芝区伊皿子町から東京歯科医学院の神田小川町・神田三崎町へ、そして千葉市へと、キャンパスを移転し、その機会ごとに大きく発展してきました。4月に「さいかち坂校舎」が開校し、これからは、三崎町と神田駿河台にある水道橋キャンパスを中心に、さらなる飛躍を目指して、新たな東京歯科大学がスタートします。さいかち坂校舎最初の学生となる皆さんは本学の新しい1ページを創る大切な主役であります。

皆さんにとって、これから始まる6年間は人生の中で最も華やかで大切な時です。是非充実した学生生活を過ごしていただきたいと思います。私たち教職員は一丸となって、皆さんを単なる歯科医師ではなく、日本あるいは世界をリードする歯科医師に育て上げることを約束します。是非皆さんはそれに応えていただき、保護者の皆様にもご理解とご協力をお願いして、訓辞といたします。

祝 辞

学校法人東京歯科大学
理事長 金子 譲

新入生の皆さん、ご父兄の皆様、ご入学おめでとうございます。

ただ今、学校法人の理事長と紹介がありました。学校法人とは学校を設置、運営する法人格であり、本法人には理事会と評議員会が組織されています。私はその理事会で理事長を務めております。その立場から皆さんへのお祝いの言葉を述べさせていただきます。

皆さんは歯科医師になるという目的は同じでも、学生生活については一人ひとりがそれぞれの目的を持って入学されたことと思います。一番大事なことはこの6年間で皆さんがこの大学を好きになることだと思います。そのためには何をするか。それは皆さんが自分から本学の教育方針に沿って大学の行事に積極的に参加することが非常に大切です。大学で懸命になって勉強をすると覚悟をしている方はもちろんすばらしいと思いますが、大事なことは、自己を確立して卒業することです。自己を確立するということは、皆さんが自分はどうかあるべきかということが分り、実行ができることです。

井出学長の訓辞の中に血脇守之助先生が「歯科医師たる前に人間たれ」とおっしゃったという話がありましたが、これが本学の教育方針です。「人間たれ」とは、元々私たちは人間だと思う人もいでしょうし、人間というのは非常に多面体なので、どういう人間になれと言っているのか分からない学生さんも沢山いるでしょう。一般に「人間たれ」というのは、生物学的な意味ももちろんありますが、それは「知識、知恵」のこととともに「徳」、人徳と言われているもの、Virtueです。そして「体」、つまり健全なからだです。これらを備えることで、色々と社会に貢献できる人間になりなさいということだと思います。

血脇先生のお考えは、医療を行う上で、知識・手技は当然としてやはり人間性が大切だということです。特にこれからはより人間性が重要視されます。従って私の皆さんへの言葉はこの大学で「よく学び、よく遊べ」ということに尽きるわけです。しかし、どのように何を学び、どのように何を遊ぶのかということは、その目標として皆さんが自分でよく考えていただきたいと思います。そのようにして6年間を過ごしていただければ、血脇先生の教えに従って東京歯科大学を立派に卒業できると思います。

本学では「井上 裕賞」という賞を卒業の時に授与しております。これは、本学の教育方針の一端を示しておりますのでご紹介しておきます。井上 裕先生は東京歯科大学をご卒業され、千葉県議会議員から国会議員になられて、参議院の議長になられた方です。本法人の理事長をされていましたが、4年前に亡くなりました。井上先生はそのご経歴から分かるように、決して歯科医師あるいは学者としてではなく、議員、政治活動でご活躍された方です。このように、医学・歯学の枠から出てもご活躍された方の名前を取らせていただいて賞を設けています。つまりこれは、皆さんが学生生活でスポーツ、文化活動、国際交流を含めて、涵養された「知・徳・体」をもって将来大いに活躍されると思うような人物に育つことを期待して授与される賞です。東京歯科大学は学生の積極的な課外活動も大切にする大学です。この度の国家試験の成績は良かったですが、本学は国家試験対策だけを教育している大学ではありません。学生として非常に多面的な活動ができる大学ですから、皆さんは大いにそれを活用し、巣立っていただきたいと思います。将来、この大学を背負っていただく皆さんへの祝辞として学校法人の理事長の立場からこのようなお話をさせていただきました。

本日は本当におめでとうございました。頑張ってください。

宣 誓

新入生代表
神坂 雪乃

本日ここに入学式を迎え、我々一同感激と希望に満ちあふれております。只今は、学長先生よりご懇篤なるご訓辞を賜り、伝統ある本学の誇りを胸に刻み、諸先生はじめ先輩の方のご指導の下に勉学に励み、人格の陶冶に努め、学生の本分を尽くす事を誓います。

水道橋キャンパスニュース

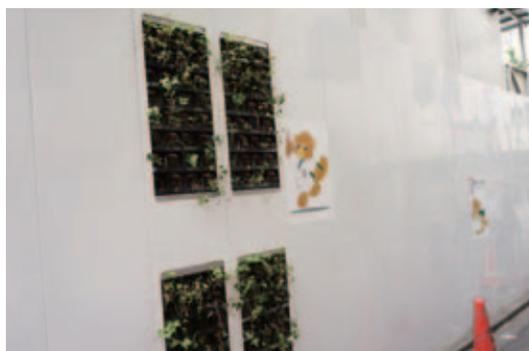
■水道橋新館校舎（仮称）建設工事現場囲塀にピアノスケが登場

水道橋新館校舎（仮称）の建設工事が、平成25年7月完成の予定で進められているが、平成24年5月29日（火）より工事現場囲塀に本学美術部白亜

会の松井駿拓君（4年）から応募のあった本学イメージキャラクターピアノスケのアレンジ画が張り付けられ、近隣の商店や住人・歩行者の方々に癒しを与えている。



水道橋新館校舎（仮称）建設工事現場囲塀



囲塀を飾る松井君アレンジ画



水道橋新館校舎（仮称）現況全景



水道橋新館校舎（仮称）B2F立上り躯体工事状況

■講座主任教授就任のご挨拶



口腔超微構造学講座

山本 仁

このたび教授会のご推挙により本年4月1日より教授に昇任し、口腔超微構造学講座の講座主任を拝命いたしました。本講座は明治39年故花澤 鼎教授により創設された「病理組織学研究室」を母体としており、これまで在籍された先生方のご努力で数多くの歯牙硬組織を中心とした研究業績を有し、それに基づいた学生教育を行っております。その講座の主任教授を務めることに身の引き締まる思いがいたします。

近年再生医療へのニーズの高まりとともに、本

講座が担当する組織学、口腔組織学、発生学、歯牙病理学に求められているものの質は高く、単に基礎研究にとどまらず、データをいかに臨床に応用するか、言い換えればいかに基礎・臨床一体型の研究として再生医療を実現させる研究を行うかが求められています。しかし一方では発生・再生分野以外でも基礎研究として明らかにしなければならぬ課題も多く、本講座に求められるものは今後ますます多様化していくと考えております。

創立120年を超える東京歯科大学は「継承と発展」というスローガンを掲げております。本講座においても幾多の先人たちによってなされた硬組織を中心とした研究を「継承」し、それを礎として発生・再生、基礎・臨床一体型研究や基礎研究などを「発展」させる。そしてそれらのエビデンスに基づいて学生教育を行うことが本講座に課せられた責務と考えております。

皆様からの御指導、御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

■教授就任のご挨拶



市川総合病院 形成外科

田中 一郎

この度、教授会のご推挙により、平成24年4月1日付けをもちまして市川総合病院形成外科教授を拝命致しました。私は平成18年に慶応大学形成外科学教室より、東京歯科大学としても、また市川周辺地域の病院としても初めての常勤形成外科医として、市川総合病院へ赴任致しました。赴任前の約1年半の非常勤勤務と合わせ約7年半の形成外科診療を行なってきましたが、この間には本学及び市川病院の職員の皆様方や地域医療関係者の皆様方の御援助をいただき、歯科大学付属の総合病院における専門性の高い1外科系診療科として、当形成外科の診療内容や必要性は、地域の患者様や医療関係者、並びに大学や院内診療科において、現在では十分に認知されてきているのではないかと考えております。

形成外科は比較的新しい分野の医療であり、生命の救済のみならず、より良い機能と形態の獲得

を求めて生まれてきた医学領域です。診療対象としては大別すると形成外科と再建外科に分かれ、瘢痕や皮膚腫瘍などを扱う形成手術、美容・整容外科、主に外表面の先天異常、頭部顔面外傷や熱傷、腫瘍切除・外傷後の変形や難治創傷などに対する再建術などを行なっております。対象部位は全身に及ぶため、特に再建手術などを通して多くの診療科との連携治療を行なっております。

市川総合病院においては、6年前に設立された口腔がんセンターでの歯科・口腔外科と連携した腫瘍切除後再建術、近年高齢化と共に増加している下肢難治性潰瘍などに対して3年前に関係各科と設立した創傷センターでの統合的創傷治療、皮膚科や眼科と連携した皮膚腫瘍外科や眼瞼形成外科などを始めとして、他科との連携治療を通して大学付属病院かつ地域基幹病院としての市川総合病院が提供する診療の質の向上に引き続き貢献させていただきたいと考えております。また、整容外科を含めて地域の形成外科診療に対する種々の要望に高いレベルで答え、さらに今まで専門領域として行ってきた顔面神経麻痺治療に関して、独自に開発した複数筋肉移植による動的口唇再建術、ビデオ画像のコンピュータ解析による表情運動評価システムなど、この分野での臨床・基礎研究を続け、大学として発信できる特色ある医療を提供していきたいと考えております。

形成外科診療には歯科・口腔外科と共通する部

分も多くあるため、創傷管理、組織移植、整容面を考慮した治療などの形成外科的な観点からの、歯学部学生、研修歯科医・専修医に対する臨床教育は意義が高いと思われますが、これらの教育も継続していきたいと思っております。

最後に、臨床・教育・研究を通して東京歯科大学及び市川総合病院の益々の発展に、微力ながら尽力して参りたいと思っておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程をどうぞ宜しく願い申し上げます。

■准教授就任のご挨拶



市川総合病院
循環器内科

大木 貴博

私が市川総合病院に赴任した13年前、救急部門がまだない状態であったため循環器症例数は非常に少なく、臨床研究を行うに十分な環境もありませんでした。しかし間もなく冠動脈疾患に対するカテーテル治療を開始すると同時に救急外来も開設して頂き、コメディカルへの教育を行いながら沢山の循環器患者の診療に当たることができるようになりました。その後年々患者数は増大し、今から7年前には心臓血管外科も開設され、今や人口46万人の市川市における循環器診療機関の最高峰を自負できるまでとなり、千葉県内でも有数の循環器内科の一つと言われるようになりました。そしてこの度私は平成24年4月1日市川総合病院循環器内科准教授を拝命致しました。この間

にご支援、ご協力を賜った病院関係者、大学の先生方には心より御礼申し上げます。

循環器疾患の多くが心不全や急性心筋梗塞のような救急疾患であり、一刻を争う病態であることがほとんどです。まさに地域密着型の診療の中心的役割を担う宿命を持っています。救急患者を断ることなく、常に精力的に取り組んでいきたいと思っております。

歯痛を主訴に歯科・口腔外科を受診した患者が、病歴などからそれが口腔疾患ではなく狭心症であると診断され、的確な措置が施されるというような事例は数多く見受けられます。本学の教育方針の成果であり、今後もその精神に忠実に従い教育を行って行きたいと考えています。

これまで急性心筋梗塞発症における歯周病原菌の関与について、微生物学教室のご協力を頂きながら臨床研究を行ってきました。本年その成果を循環器コアジャーナルの一つと言われる有名雑誌に論文として発表できました。当学の研究環境でこそ可能であった研究でした。今後更に口腔疾患と心臓病との関連について研究を進展させていきたいと思っております。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

学内ニュース

■平成24年度新入生オリエンテーション実施

平成24年4月1日(日)午後1時より、新入生を対象としたオリエンテーションが、さいかち坂校舎第1講義室において行われた。

井出吉信学長より「新入生に寄せて」、石井拓男副学長より「学生生活の心構え」、河田英司教務部長より「教務部の立場から」、佐藤 亨学生部長より「学生部の立場から」、橋本正次教養科目協議会幹事より「教養の立場から」について詳しく説明が行われた。

続いて、教務・学生・図書からの事務連絡があり、実習講義室に場所を移して教材の配布が行われた。

その後、学生証用の顔写真の撮影を行い、新入生オリエンテーションは滞りなく無事終了した。



真剣な表情で話に参加する新入生：平成24年4月1日(日)、さいかち坂校舎第1講義室

■第119期生（平成24年第5学年）登院式

平成24年4月2日（月）午前11時30分より、千葉校舎第2教室において、第119期生（平成24年度第5学年）127名の登院式が厳かに挙行された。式は矢島安朝臨床教育委員長の司会のもとに進められた。まずはじめに、高野伸夫千葉病院長が訓辞を述べ、次いで、列席者の紹介があり、列席者がそれぞれ臨床実習開始にあたっての心構えを説いた。

引き続き登院生を代表して大津雄人君が宣誓を行い、式は滞りなく終了した。

第119期生は今までに学んだ授業や総合学力試験、共用試験をクリアする中で習得した、知識・技能・態度を存分に発揮し登院実習に臨むべく、充実した表情で訓辞や心構えを聞いていた。



第119期生を代表して宣誓を行う大津君：平成24年4月2日（月）、千葉校舎第2教室

■平成24年度千葉病院レジデント辞令交付式

平成24年4月2日（月）午前9時より、千葉校舎第3教室において、平成24年度千葉病院レジデント辞令交付式が行われた。

式は櫻井 薫千葉病院副病院長の開式の辞より始まり、高野伸夫千葉病院長による訓辞の後、新



高野千葉病院長より辞令を受ける石岡レジデント（左）：平成24年4月2日（月）、千葉校舎第3教室

任レジデントおよび継続レジデントに各々辞令が交付され、式は無事に終了した。

※レジデントの氏名は、人事その他の欄に掲載

■平成24年度教育職員辞令交付式

平成24年度の教育職員辞令交付式は、平成24年4月2日（月）午前10時より、千葉校舎第1教室において、准教授以下を対象として開催された。4月1日付発令の採用（23名）、再任（27名）、昇任（6名）、配置替（9名）、配置替・再任（1名）、任用継続（1名）で助手以上の教育職員67名が集合し、井出吉信学長、柳澤孝彰副学長、石井拓男副学長、加藤靖明大学事務部長ご臨席のもと、菅沼弘春大学庶務課長の司会進行により、井出学長から辞令が交付された。交付終了後、井出学長から祝辞が述べられ、教育・研究・診療に最善の努力を尽くし、かつ有為なる人材の育成に努めて大学の発展に尽力してもらいたいとの挨拶があった。

続いて午前10時30分からは、同会場において4月1日付発令のリサーチ・レジデントの任用（1名）・更新（1名）、ポストドクトラル・フェローの任用（1名）・更新（2名）、リサーチ・アシスタントの任用（7名）・更新（3名）とティーチング・アシスタントの任用（21名）・更新（23名）、計59名が集まり辞令交付式が開催された。井上 孝大学院研究科長から辞令が交付され、その後、柳澤孝彰副学長より移転に向けた心構えと大学からの期待について訓辞があり、辞令交付式は滞りなく終了した。



辞令を交付する井出学長（右）：平成24年4月2日（月）、千葉校舎第1教室

■平成24年度臨床研修開始式

平成24年4月2日（月）午後1時30分より、千葉校舎歯科臨床研修医室において、千葉病院で研修を行う106名の臨床研修歯科医および関係者出席

のもと、平成24年度歯科臨床研修開始式が行われた。

式は亀山敦史研修管理副委員長の開式の辞に始まり、高野伸夫千葉病院長より研修歯科医を代表して生地拓也研修歯科医に辞令が交付された。その後、高野千葉病院長による訓辞、高橋俊之研修管理委員長の挨拶が行われ、式は無事終了した。

市川総合病院では、医科と歯科の合同による臨床研修開始式が、平成24年4月2日（月）午後2時半より、市川総合病院の第2・3会議室で開催された。当日は、安藤暢敏市川総合病院長から辞令交付があり、引き続き、安藤市川総合病院長、片倉 朗歯科研修管理委員長から、それぞれ、ご挨拶を頂いた。その後、医療情報システム操作研修が行われた。

水道橋病院では、平成24年4月2日（月）9時より、水道橋校舎6階研修室において臨床研修開始式が行われた。古澤成博水道橋病院研修管理委員長による開式の辞に続き、一戸達也水道橋病院長より臨床研修歯科医14名全員に辞令が交付された。続いて、一戸水道橋病院長による訓辞があり、無事に式を終了した。



訓辞を受ける研修歯科医：平成24年4月2日（月）、千葉校舎歯科臨床研修医室



辞令を交付する安藤市川総合病院長（中央）：平成24年4月2日（月）、市川総合病院第2・3会議室

今回はスタッフと各科の代表者を合わせて26名が集まり、前年度臨床実習の評価、今年度前期臨床実習カリキュラム作成、カリキュラムの修正、前期を踏まえた後期臨床実習カリキュラムの作成、総合討論の5つのセッションからなるプログラムが実施された。

最後の総合討論では、今年度の内容に留まらず、水道橋移転後も見据えた基礎系・臨床系の知識(想起・解釈・問題解決)を定着させるためのカリキュラム・プランニングについて、また、昨年度7月に大学と同窓が一体となり開催された、「学外臨床実習ワークショップ」で検討された、臨床実習中に「患者中心の歯科医療」を更に深化させて、歯科医師臨床研修により効果的につなげるための態度・技能の定着を図るカリキュラムについても意見交換が行われた。

今回作成されたカリキュラムは各会議体の承認を経て、全学的に取り組まれており、実施状況の報告・評価の機会を設け、常に改善を図る体制をとっているところである。



訓辞を受ける臨床研修歯科医：平成24年4月2日(月)、水道橋校舎6階研修室

■第2回臨床実習の効果的なカリキュラム作成・実施の為にワークショップ開催

平成24年4月7日(土)、8日(日)水道橋校舎13階において、第2回臨床実習の効果的なカリキュラム作成・実施の為にワークショップが合宿形式で開催された。本ワークショップは前回10月に開催し、第118期生(平成23年度第5学年)より実施された、新たな臨床実習プログラムを評価・改善し、第119期生(平成24年度第5学年)以降の臨床実習カリキュラム・プランニングを行ったものである。



全体発表後の質疑応答で熱心に意見交換を行う参加者：平成24年4月7日(土)、水道橋校舎13階ルームB

■平成24年度 東京歯科大学 法人役員と教授との懇親会開催

「東京歯科大学 法人役員と教授との懇親会」は、平成24年4月10日(火)午後6時30分より、ホテルニューオータニ幕張「鶴東の間」において開催された。

懇親会は、河田英司教務部長の司会進行のもと、柳澤孝彰副学長から開会の挨拶に続いて法人役員との紹介が行われた。その後、金子 譲理事長、井出吉信学長から挨拶があり、熱田俊之助常務理事によって乾杯のご発声が行われ、懇親会が開宴となった。

終始和やかな雰囲気で行われ、法人役員、教授間の交流、懇親は大いに深められた。午後8時過ぎに石井拓男副学長による閉会の挨拶で中締めとなり、本学の今後更なる発展を祈念しつつ会は終了した。



盛会を祝い乾杯する出席者：平成24年4月10日（火）、ホテルニューオータニ幕張

■歯科医師国家試験問題等の現状把握のための教員オンラインテスト

平成24年4月21日（土）、28日（土）水道橋校舎13階ルームAにおいて、歯科医師国家試験問題等の現状把握のための教員オンラインテストが開催された。基礎系・臨床系部門に所属する教員を対象に「教育職員が、歯科医師国家試験問題等を理解することにより、自身の分野だけでなく、幅広い分野の出題傾向・状況を把握し、教育・指導に資する。」という目的で実施された。

年度初めの多忙のところ、両日合わせ165名の教員（対象者ほぼ全員）が受験した。



真剣な表情で受験する教育職員：平成24年4月28日（土）、水道橋校舎13階ルームA

■第112回歯科医学教育セミナー開催

平成24年4月23日（月）午後6時より、千葉校舎第2教室において、第112回歯科医学教育セミナー

が開催された。今回は、「新年度の教育体制について」と題し、石井拓男副学長、河田英司教務部長から説明が行われた。

はじめに、石井副学長から、本学の平成24年度入学試験の講評が、他大学歯学部の入試状況と併せて行われた。続いて、第105回歯科医師国家試験について、新卒者、既卒者も含め全国歯科大学で合格率トップという輝かしい結果を残したことに触れつつも、油断することなく常に教育活動の改善を図るべく、総合学力試験の結果等をもとに比較・分析された。

続いて、河田教務部長より、「24年度の教育方針」について、説明が行われた。

まず、今回の国家試験結果の分析により、試験領域ごとの正答率や出題方式傾向について説明があり、それらを踏まえた今後の講義・実習や国家試験対策の取り組みに関する方針が掲げられた。次に、カリキュラム編成上の変更点、昨年度の出席状況、学生による授業評価等の説明があり、各学年の科目試験と総合学力試験の比較・考量等がなされた。

当日は多くの参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



説明する石井副学長：平成24年4月23日（月）、千葉校舎第2教室

■平成24年度第1回水道橋病院教職員研修会開催

平成24年4月23日（月）午後5時30分より、水道橋校舎13階ルームBにおいて、平成24年度第1回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「医療英語」と題して、本学昭和62年卒の菅野真由美先生にご講演いただいた。

菅野先生は、診療室で実際に使用している英文の問診表を示し、各項目の内容、意味について説明された。また、実際の診療の中で頻繁に用いら

れる用語の英文表記を歯科学・検査・全身疾患・歯科治療といった分野毎に紹介された。

また、日本と海外との歯式の違いについて、主に日本で普及している”Zsigmondy & Palmer system”、欧米諸国で用いられているFDI方式(Two-Digit system)、アメリカで用いられている”ADA system”(Universal system)の3種類を例示し、同じ番号・アルファベットでも歯式の種類により示している歯が異なるため、紹介状等の書類を海外とやりとりする際には注意が必要であると解説された。さらに、診療の予約や実際の診療の場面で想定される会話の文例を紹介された。

水道橋病院においても外国人患者からの問い合わせや来院は多く、対応に戸惑った経験は誰にでもあるはずである。患者にとっても、外国で病気になる時に言葉が通じないのは不安に違いない。大学病院の職員として、外国人の患者にも積極的に対応できるよう、最低限必要な英語の知識と会話能力を身につけ、安心・安全な医療を提供するよう努めなければならないと再認識した研修会であった。



講演される菅野先生：平成24年4月23日(月)、水道橋校舎13階ルームB

■第11回水道橋病院症例報告会開催

平成24年5月17日(木)午後6時より、水道橋校舎13階ルームBにおいて、第11回水道橋病院症例報告会が開催された。この会は、紹介医の先生方との密接な医療連携を推進し、日常取り組んでいる臨床についての相互理解を深めることを目的として毎年開催しているものである。今回は、「明日の診療に役立つ確かなエビデンス」をメインテーマに、開業医の先生方が日常臨床で遭遇する諸問題の解決の糸口となるよう、歯科を中心に全身に関連する情報を提供できるよう企画された。

会に先立ち、一戸達也水道橋病院長より、日頃の御礼と挨拶があった。第1演題はピッセン弘子教授(眼科)が「老眼治療最前線」と題し、老眼のメカニズム、様々な症状に応じた治療法の選択について解説し、近年可能になった画期的な治療法を紹介した。第2演題は山下秀一郎教授(総合歯科)が「短縮歯列のコンセプトとその是非について考察する」と題し、短縮歯列の概念、我が国における適用の是非についての研究・議論の経緯および今後の展開について説明した。第3演題は外木守雄先生(日本大学歯学部口腔外科特任教授)より「睡眠時無呼吸症候群に対する歯科医療の役割」と題し、呼吸障害と咬合の関連性、睡眠時呼吸障害に対する歯科医療の現状と問題点、および今後の展望についてお話しいただいた。最後の第4演題は福田謙一准教授(歯科麻酔科)が「明日の歯科診療に役立つペインコントロール」と題し、歯科における適切なペインコントロールの重要性、安心かつ有用な局所麻酔の施行、鎮痛剤の選択・処方の具体例等について説明した。

また、各診療科・看護部・歯科衛生士部によるポスター発表が10演題、および協賛業者5社によ



講演する山下教授：平成24年5月17日(木)、水道橋校舎13階ルームB



会場風景：平成24年5月17日(木)、水道橋校舎13階ルームB

る展示も行われ、盛会のうちに終了した。

■「医学研究に関する倫理」講習会開催

平成24年5月22日(火)、23日(水)の2日間、「医学研究に関する倫理」講習会が開催された。本講習会は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」が「臨床研究機関の長は、研究者が臨床研究の倫理に関する講習、教育を受けることを確保するために必要な措置を講じなければならない」こと、「研究者は、臨床研究の実施に先立ち、臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識についての講習、教育を受けなければならない」と規定していることから開催され、本学の専任教員、リサーチレジデント、レジデント、ポストドクトラル・フェロー、大学院生全員を対象に、千葉校舎講堂では講義を、そして水道橋校舎13階B教室と市川総合病院講堂にはこの講義をテレビ会議システムにより配信して実施した。

第1日目の22日(火)は、吉成正雄研究部副部長の司会で午後6時から開会され、柳澤孝彰副学長、石井拓男副学長の挨拶後、眞木吉信教授(社会歯科学研究室)により「歯学・医学研究の倫理指針について」の講義があり、現在、厚生労働省が定めている各種指針に関する講義が行われた。続いて柳澤副学長(大学倫理委員会委員長)より、「倫理委員会規則の遵守について」と題し、本学倫理委員会規則に沿って、規則の説明、倫理申請から承認までの流れについて講義が行われた。1日目の最後は、田崎雅和教授(本学実験動物施設管理部長)により、「動物実験の適切な実施に対する基本姿勢について」と題し、現状の動物実験の状況、本学での動物実験の申請から承認までの流れについて講義が行われ、1日目を終了した。

第2日目の23日(水)は、前日同様午後6時から、石上恵一研究部副部長の司会で開会した。まず、水口清教授(不正防止推進室室長)より、「公的研究費の適正使用について」の講義が行われ、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」、文部科学省が定める「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」についての解説の後、この法律やガイドラインに沿って本学が施行した不正防止計画や研究費の管理体制の整備について説明があった。続いて、平田創一郎准教授(社会歯科学研究室)より「利益

相反の管理に関する指針について」の講義があり、利益相反についての説明、我が国で定めている利益相反に関する指針、本学利益相反委員会規程に関し講義が行われ、全日程を終了した。

本講習会では、2日間ともプレテスト・ポストテストが行われ、出席者は理解を深めた。三施設併せて、1日目519名、2日目477名が出席し、有意義な講習会となった。



講習会会場風景：平成24年5月22日(火)、千葉校舎講堂



挨拶する石井副学長：平成24年5月22日(火)、千葉校舎講堂

■市病フォーラム第16回市民公開講演会開催

市川総合病院において毎年開催している市病フォーラム主催による市民公開講演会が、平成24年5月26日(土)午後2時より、市川グランドホテルにおいて開催された。

「今、子どもたちの環境が危ない！」と題し、次の各テーマに分け、それぞれに講演者を立て、実行委員長である江口博之小児科部長の司会進行のもと行われた。

1. 「子どもにやさしい視覚環境案内」

半田知也(北里大学医療衛生学部 リハビリテーション学科視覚機能療法学 准教授)

2. 「子どもの口腔外傷について～けがをした際のチェックポイント～」
武安嘉大（東京歯科大学市川総合病院 オーラルメディスン・口腔外科学講座 助教）
3. 「市川市の子どもの虐待への取り組み」
杉山育子（市川市子ども部子育て支援課 主査）
4. 「たすけてと言えない子どもたち」- 性被害は身近なところで起きている！ -
酒井道子（慶應義塾大学医学部小児科学教室 臨床心理士・子どもを性被害から守るクローバーキッズ協会）
5. 「小児生活習慣病について」
江口博之（東京歯科大学市川総合病院小児科 准教授・部長）

それぞれの専門分野から、市民の皆様が日頃から疑問に思っていることや心配していることについて、丁寧にわかりやすく講演が行われた。70名を超える入場者からは、大いに関心が寄せられ、質疑応答も活発に行われ、市民公開講演会は盛会のうちに終了した。



開会の挨拶をする江口実行委員長：平成24年5月26日（土）、市川グランドホテル



質疑応答風景：平成24年5月26日（土）、市川グランドホテル

■第113回歯科医学教育セミナー開催

平成24年5月28日（月）午後6時より、千葉校舎第2教室において、第113回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「臨床実習における基礎系科目の連携について」と題し、昨年10月に実施された「臨床実習中の効果的なカリキュラム作成・実施の為のワークショップ」において、取り決められ、開始された基礎系科目との連携授業について、担当教員により実施報告が行われた。

はじめに、有床義歯補綴学講座の上田貴之准教授により、臨床実習における連携授業の概要や実施状況が説明された。

次に、連携授業を担当している教員（解剖学講座：坂 秀樹講師、生理学講座：澁川義幸講師、歯科理工学講座：服部雅之講師）により、具体的な実施内容について説明がなされた。講義形式やディスカッション形式、さらには基礎系の実習に参加させることで理解度を高めるなど様々な手法を実施しているとのことであった。

一定期間実施し、連携授業に携わった教員の共通した見解として、多くの学生に基礎的知識の欠落や、知識があったとしても基礎と臨床とを結びつけることができていない状況が見受けられたとのことであった。今回の報告より、現状の問題点が明確になるとともに、基礎系と臨床系の連携の重要性を再確認することができたセミナーであった。



説明する服部講師：平成24年5月28日（月）、千葉校舎第2教室

大学院ニュース

■平成24年度大学院歯学研究科入学式

平成24年4月9日(月)午前10時より、千葉校舎第1会議室において、平成24年度大学院歯学研究科入学式が挙行された。東 俊文大学院教務部長の開式の辞に続き、新入生の紹介を行った。そして、新入生代表笠原正彰君に井出吉信学長から入学許可証が授与された。続いて井出学長の訓辞、井上 孝大学院研究科長の挨拶の後、新入生を代表して笠原君が宣誓し、入学式を終了した。



新入生代表として井出学長より入学許可証を受け取る笠原君(中央)：平成24年4月9日(月)、千葉校舎第1会議室

■大学院オリエンテーション開催

平成24年4月9日(月)大学院入学式終了後、千葉校舎実習講義室Iにおいて、本年度の大学院新入生を対象にオリエンテーションが開催された。

今回のオリエンテーションでは、大学院生各人に履修簿が渡され、井上 孝大学院研究科長、東 俊文大学院教務部長、末石研二大学院学生部長から、履修簿の取扱いや、講義の受講について詳細な説明が行われた。

■第343回大学院セミナー開催

平成24年4月13日(金)午後5時30分より、千葉校舎第1教室において、第343回大学院セミナーが開催された。今回はハーバード大学歯学部准教授、Nadeem Y. Karimbux先生をお迎えして“Oral-Systemic Links-Fact or Fiction.”と題した講演を伺った。講演の概略は、「歯周病は、近年、推定上の歯周病原体によって、進行はホストの応答によって媒介されることに起因するとされている。進行速度に関連する危険因子として年齢、遺

伝、喫煙、コントロール不良の糖尿病などが挙げられ、全身の健康とのリンクを考えるようにシフトしている。最近システムティックレビューとメタアナリシスを行い、スクレーピングとルートプレーニングが無治療に比べて早産、低出生体重のリスクを減少させるかどうかを調べ、早産のリスクの高いグループに行った歯周処置は、早産のリスクを減らすことが統計学的に有意に示された。また同様な調査方法で、炎症性メディエーターの増加レベルといくつかの炎症性疾患に関連付けられているインターロイキン-1遺伝子多型のうち、IL1A と IL1B 遺伝子変異は白人の慢性歯周炎に重要な関連を持つことが示された。」であり、聴講者にとってたいへん有意義であった。

Karimbux先生はハーバード大学歯学部における卒前後の歯周病学のDirectorであるが、1998年来、歯学教育のAssistant deanも務めており、特にPBLの責任者でもある事は特筆できる。

講演後、矯正歯科医局でカジュアルなウエルカムパーティーが開かれ、医局員の質問にひとつひとつ丁寧にご答えくださり、誠実なお人柄がうかがえた。



講演されるKarimbux先生：平成24年4月13日(金)、千葉校舎第1教室

■第344回大学院セミナー開催

平成24年4月18日(水)午後5時40分より、千葉校舎第2教室において、第344回大学院セミナーが開催された。今回は東京医科歯科大学軟骨再生学 関矢一郎教授をお迎えして「滑膜由来の間葉系幹細胞による軟骨・半月板再生」と題した講演を伺った。

軟骨組織は細胞密度が低く、血行を欠くため、

再生能力が低い。そのため、軟骨欠損にたいして細胞成分を補うことが、軟骨再生を向上させるための手段の一つになる。細胞源としては間葉系細胞が自己細胞を利用できる点、多数の細胞を確保できる点で有利である。

間葉系幹細胞は間葉組織由来で自己増殖能を有する細胞集団であり、表面抗原として CD34 (-) CD44 (+) CD45 (-) CD90 (+) CD105 (+) CD106 (+) CD166 (+) Stro-1 (+) が典型的パターンとされるが、特定なひとつで代表されるような特異的なものはない。

自己増殖能を証明することは意外に容易ではなく、コロニー形成能で代用され示される事が多い。このコロニー形成能は間葉系細胞の特性のひとつである。間葉系細胞をプレートに播種し14日培養して、クリスタル・バイオレットで染色すると、骨髄に比べてコロニー形成能は滑膜由来のものが100倍高い。軟骨細胞に分化する割合は滑膜由来のものが脂肪や皮膚由来のものより明らかに良い。細胞接着にはインテグリンが関与し、マグネシウムの影響を受ける事が知られる。これを臨床応用すると、軟骨欠損部に整地して、接着する細胞数が増加し臨床成績の向上が期待される。

骨髄液や滑膜などの間葉系組織中には、体外でよく増殖し、多分化能を有する「間葉系幹細胞」が存在する。私たちは膝の関節液中に間葉系幹細胞が少量存在し、前十字靭帯損傷、軟骨損傷、半月板損傷、変形性関節症を呈すると関節液中の間葉系幹細胞が増加することを明らかにした。

遺伝子プロファイルの解析によると、関節液中の間葉系幹細胞は滑膜由来のものに類似する。膝関節内の組織損傷・障害を生じると、間葉系幹細胞が滑膜から関節液中に動員され、組織修復に寄

与する機構の存在が予測される。

これまでの基礎研究の成果を踏まえ、滑膜の間葉系幹細胞を体外で自己血清を使用して増殖させ、人工素材を使用せずに、関節鏡視下で軟骨欠損部に移植する、関節軟骨の再生医療をすでに開始している。また、本年度には滑膜間葉系幹細胞を用いた半月板治療も計画している。

■第345回大学院セミナー開催

平成24年4月26日(木)午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第345回大学院セミナーが開催された。今回は名古屋大学大学院医学系研究科予防医学 内藤真理子准教授をお迎えして「口腔分野における Quality of Life/Patient-reported Outcome 評価：尺度開発とその応用」と題した講演を伺った。

内藤准教授は、平成3年に九州歯科大学をご卒業後、さまざまな分野でご活躍され、現在は名古屋大学で、主に Quality of Life (QOL) に関する研究をなされている。現在、歯科医学の臨床、研究において QOL は中心的な概念である。口腔の健康状態や疾患が、生活のあらゆる面に影響することが明らかとなり、口腔関連 QOL の評価の必要性が注目されている。

講演では、まず QOL 研究の概要、健康関連 QOL 尺度や口腔関連 QOL 尺度などについて分かりやすくご説明していただいた。さらに、現在の健康関連 QOL 研究の動向についても解説していただいた。また、現在行っている口腔関連 QOL の疫学研究について、苦勞した点も含めて、詳しい紹介があった。中でも、口腔関連 QOL 尺度の一つである General Oral Health Assessment Index (GOHAI) の日本語版の開発については、



講演される関矢教授：平成24年4月18日(水)、千葉校舎第2教室



講演される内藤准教授：平成24年4月26日(木)、千葉校舎第5教室

原著者とのコンタクトや翻訳の方法まで具体的に作成手順の紹介があり、大学院生をはじめとする研究者にとって学ぶことが多かった。今回の講演には多数の参加者があり、講演終了後は同種の研究に取り組んでいる大学院生・教員からの多くの質問がなされた。本講演は、内藤准教授の研究に対する熱意や取り組み方に触れることができ、QOL研究の重要性を改めて認識できる大変有意義なものであった。

■平成24年度大学院新入生学外総合セミナー開催

本年度の大学院新入生学外総合セミナーが平成24年5月9日(水)から11日(金)にかけて、神奈川県三浦市にある研修施設、マホロバ・マインズ三浦にて開催された。

参加者は、大学院教学関係では井上 孝大学院研究科長、東 俊文大学院教務部長、末石研二大学院学生部長、新谷益朗大学院教学担当者が、大学院事務部からは百崎和浩事務主任、学生課からは吉田成彦係長が参加した。また本学からは齋藤 淳歯周病学講座教授と田崎雅和生理学講座教授に講師として参加していただき、新入生37名の指導に当たった。

初日は午後1時より開講し、自己紹介の後、「あきらめない研究」と題して齋藤教授にご講演を頂いた。ご自身の研究の道りを紹介しながら、研究を行うことの意義を考えさせられる、これから研究を始める学生にとって大変有意義なものだった。

次に課題として動物実験の倫理をテーマに田崎教授にご講演を頂いた。2日目にかけてのグループ別討議とその発表、質疑を通じて、実験動物の福祉と医学、医療の発展とを考えさせるものだった。また、これは研究者の社会への対応を意識させるもので、グループ別に幅広い意見が提出され、学生同士で熱心に討議が行われ、田崎教授からも高い講評を頂いた。

3日目は学外から、丸山勝也久里浜医療センター(前久里浜アルコール症センター)前院長による「我が国におけるアルコール関連問題の現状と対策」と題した講演を伺った。1時間あまりの短い講演だったが、丸山先生の長いご経験と深い知識に支えられた明快なご講演で、大学院生からも活発に質問が行われた。最後に、大学院生による英文学術論文紹介が行われた。自身が選んだ論文を

発表するもので、論文の批判的評価とプレゼンテーション技術、そして質疑への応答を体験する充実した実習だった。

最後に閉会式と記念撮影が行われ、学生間の交流が図れた3日間終了した。



グループ討議風景：平成24年5月10日(木)、マホロバ・マインズ三浦



講演後の集合写真：平成24年5月11日(金)、マホロバ・マインズ三浦

■第346回大学院セミナー開催

平成24年5月17日(木)午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第346回大学院セミナーが開催された。今回は松本歯科大学学生化学講座・総合歯科医学研究所 宇田川信之教授をお迎えして「骨再生を目指した破骨細胞・骨芽細胞・歯髄細胞・骨髄細胞を用いた研究」と題した講演を伺った。

破骨細胞はマクロファージ系の骨髄由来細胞でその分化過程も含めなぜ骨組織にのみ存在するのかが鍵であった。宇田川教授をはじめとする須田教授研究室では骨髄細胞と骨芽細胞を共培養することにより、破骨細胞が非常に多数出現することを発見された。その後、様々な研究室の競争のすえ骨芽細胞が発現するRANKLという分子が骨髄由来単球系細胞のRANKという受容体に結合して

単球を破骨細胞に分化誘導することが判明した。

このように破骨細胞分化因子RANKLとその受容体RANK、そしてRANKLのデコイ受容体であるオステオプロテゲリン (OPG) の発見 (1997年) から10年以上経過した現在、RANKL中和抗体が骨粗鬆症の治療薬として臨床応用に至った。歯髄は、脱落乳歯や歯科矯正治療における便宜抜去歯などから容易に採取可能であり、自己移植材料として有用と考えられる。宇田川教授らはこれまでに、マウスの下顎前歯から採取した歯髄および歯根膜組織を用いた簡便な培養方法の確立を目指してきた。その結果、マウス歯髄から採取した細胞は高いアルカリホスファターゼ活性を有しており、*in vitro* および *in vivo* において強力な石灰化能を有していることが明らかとなった。現在この石灰化の亢進メカニズムを歯髄細胞の遺伝子レベルでの特殊性で説明しようとしている。患者自身の骨髄間葉系幹細胞を用いた骨・軟骨の再生療法に関しては、既に細胞培養技術が確立され、臨床応用が始まっている。宇田川教授らの研究グループも、ヒト自己骨髄細胞を培養することにより、多血小板血漿 (PRP) と共に β -リン酸三カルシウム (β TCP) をキャリアにして、歯槽骨欠損部位に移植し骨増生を図るための臨床研究を開始している。



講演される宇田川教授：平成24年5月17日 (木)、千葉校舎第5教室

■第347回大学院セミナー開催

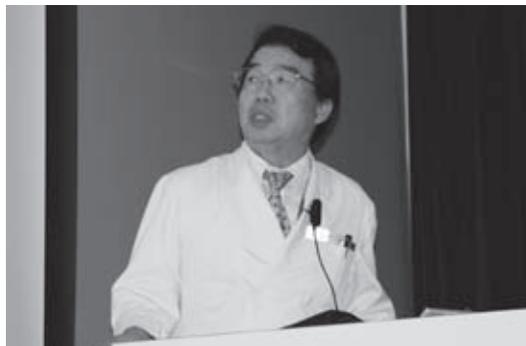
平成24年5月24日 (木) 午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第347回大学院セミナーが開催された。今回は本学口腔科学研究センター・歯科理工学講座の吉成正雄教授に「再生医療」に関するテーマで講演を伺った。

口腔組織再生特に顎骨の再生はインプラント

治療の有効性を高めるために重要な課題である。吉成研究グループでは、骨髄間葉系幹細胞をスキャフォールド内に有効に生着させる新たな方法としてラジアルフロー型還流装置を用いてスキャフォールド深部に幹細胞を生着させることに成功した。この方法によりこれまで立体的構造を作成することが難しかった、硬組織再生医療で立体構造を幹細胞を用いて実現できる可能性を高めた。

さらに、BMP発現を誘導して骨芽細胞分化を誘導する方法の一つとして、スタチン系薬剤の活用が有効であることを示した。スタチンはコレステロール合成経路の阻害剤でコレステロール合成を有効に低下させ、高コレステロール血症の治療法として汎用されている。従って、薬剤の経済性はBMPに比し格段に優れている。この薬剤はすでに臨床で応用されているため生体における有効性、安全性は高いので骨組織の再生においては極めて経済性に優れた方法である。今後これらの方法を有効に利用して顎骨傷害を再生医療により修復することを目指す。

さらに様々なスキャフォールド材質の特性をためす上で、生体との親和性に優れ力学的にも高い耐用性のあるスキャフォールドであれば必ずしも吸収性スキャフォールドは必要ないことを示した。



講演する吉成教授：平成24年5月24日 (木)、千葉校舎第5教室

■第348回大学院セミナー開催

平成24年5月31日 (木) 午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第348回大学院セミナーが開催された。今回は鶴見大学歯学部病理学講座 齋藤一郎教授をお迎えして「唾液腺の障害と修復の病理」と題した講演を伺った。

齋藤教授は現在本学オーラルメディシン・口腔外科学講座の非常勤講師として研究・教育

の御指導を頂いている。講演では、まず研究の基本概念としてBasics of ScienceはCDMRS (C:Control, D:Dose Response, M:Mechanism, R:Reproducibility, S:Significance) が重要であり、Publish or Perish (研究業績を出せ、さもなければ消えよ) がアカデミックな世界の合言葉であると説かれた。その後、留学されていた米国のスクリプス研究所等での研究について話された。中でも齋藤教授のシェーグレン症候群に関する多くのご業績は世界的にも高い評価を受けており、本症の発症機序の一つにダイオキシン類の関与がある事、またエストロゲンを介した腺組織破壊の分子機構、さらには疾患モデルマウスによる病因解析など精力的に研究され、最近では唾液腺の再生にStem cell を応用する研究をされている内容なども紹介された。現在では、その研究業績を生かし、鶴見大学付属病院での特殊外来（ドライマウス外

来) を開設するに至り、研究は臨床に応用できるトランスレーショナルリサーチで有るべきであると述べられた。多くの大学院生は研究を進める上でも多くの示唆を頂戴した。講演後多くの質問があり活気あるセミナーとなった。



講演される齋藤教授：平成24年5月31日（木）、千葉校舎第5教室

トピックス

■第5回日中歯科医学大会2012開催報告

一日中歯科医学大会2012が、副大会長金子 譲理事長、大会準備委員長井上 孝教授のもと中国四川にて開催—

第5回日中歯科医学大会2012（中国側の名称：第5回中日口腔医学大会）が中華人民共和国西南部に位置する四川省の成都にある四川大学華西口腔医学院において、平成24年4月26日（木）から28日（土）までの3日間の日程で開催された。主催団体は日本側が日本歯科医師会、日本歯科医学会、中国側が中華口腔医学会、中国医師協会口腔医師分会、後援団体が日中医学協会で、大会長は、日本側が大久保満男（日本歯科医師会会長）、江藤一洋（日本歯科医学会会長）、中国側が王 兴（中華口腔医学会会長）周 学东（中華口腔医学会副会長／四川大学華西口腔医学院院長）、そして副大会長として本学金子 譲理事長、大阪歯科大学川添堯彬理事長・学長、日本歯科大学中原 泉理事長・学長であった。準備委員会は日本側委員長として井上 孝（東京歯科大学教授）、中国側の委員長として叶 玲（四川大学華西口腔医学院教授）が担当した。日程は4月26日（木）午後6時より井上準備委員長の司会のもと開会式および歓迎

晩餐会が錦江賓館で行われた。翌4月27日（金）は四川大学華西口腔医学院にて午前9時30分から12時まで特別講演（日本3題、中国3題）が行われた。昼食後、午後2時から5時まで口頭発表（日本側は東京歯科大学臨床検査病理学講座橋本和彦助教を含む8題、中国側3題）が同会場にて行われた。その後、午後5時から6時まで会場前の駐車場に設定された会場でポスター発表（東京歯科大学11題を含む日本側188題、中国側88題）が行われた。当日夜は午後6時30分から8時30分まで日本側主催の晩餐会（Japan Night）が開催され両国の親交を深めた。最終日の4月28日（土）は、午前9時か



開会式および歓迎晩餐会で紹介される大会長および大会副会長：平成24年4月26日（木）、錦江賓館

ら11時まで本大会では初めてとなる国際セミナー（日本、韓国、タイ）が行われた。その後閉会式をもって3日間の全日程を終了した。今大会では、日本側の出席者は313名（東京歯科大学関係者14名）、中国側77名、華西口腔医学院の学生および大学院生の参加があり、今までにない盛大かつ有意義な学会となった。なお、華西口腔医学院とは本年より姉妹校締結を行っており、今後の益々の研究、教育、臨床交流が活発に行われると思われる。



International Seminar会場の四川大学華西口腔医学院：平成24年4月28日（土）



金子理事長（前列中央）を囲んで東京歯科大学関係者の記念写真：平成24年4月27日（金）、銀杏川菜酒樓

■坂 英樹講師 PEDIATRIC DENTAL JOURNAL 優秀論文賞を受賞

解剖学講座 坂 英樹講師が平成24年5月12日（土）、13日（日）に開催された第50回日本小児歯科学会大会（東京国際フォーラム）において、平成23年度Pediatric Dental Journalに掲載された論文から優秀論文と認められ、12日の表彰式の中で日本小児歯科学会・浅田芳信理事長より賞牌と賞金が贈呈された。

受賞論文は「The morphological studies of root resorption of maxillary primary canines and the

ir relation with the position of successive permanent teeth using Micro-CT」である。

小児顎骨の内部は乳歯と永久歯が存在するため非常に複雑であり、不明な点を多く残している。この論文は、特に上顎乳犬歯部に焦点を絞り、乳犬歯歯根と後継永久歯およびその周囲の構造の変化について三次元的に観察を行ったものである。主に臨床的研究の論文が掲載される雑誌において、臨床につながる基礎的な内容が高く評価されたことから今回の受賞に至った。



浅田理事長（右）より賞牌と賞金を贈呈される坂講師（左）：平成24年5月12日（土）、東京国際フォーラム



高野博子副大会長（右）と受賞した坂講師（左）：平成24年5月12日（土）、東京国際フォーラム

■社団法人日本補綴歯科学会第121回学術大会開催（大会長：櫻井 薫教授、実行委員長：佐藤 亨教授）

社団法人日本補綴歯科学会第121回学術大会が、平成24年5月26日（土）、27日（日）に本学有床義歯補綴学講座 櫻井 薫教授を大会長として横浜市の神奈川県民ホール他にて開催された。大会テーマは、「臨床イノベーションに貢献する補綴歯科一活かせる知識と技術を一」であった。

学術大会に先立ち、25日(金)には、ローズホテル横浜にて懇親会が開催された。実行委員長を務めた、本学クラウンブリッジ補綴学講座 佐藤 亨教授が司会を務め、井出吉信学長が本学を代表してお礼の挨拶を行った。また、来賓として招かれた本学同窓会の杉山紀子 神奈川県支部連合同窓会会長、池田嘉徳横浜中央支部長、矢島 満横浜北部支部長、佐藤秀夫横浜鶴見支部長、玉井達人横浜南部支部長、佐藤信之横浜西部支部長が紹介されると、本学挙げての支援に感謝の声が上がった。その後、横浜・中華街らしく中華料理がふるまわれ、余興として中国雑技団によるパフォーマンスが行われるなど趣向を凝らした懇親会であった。

学術大会では、アメリカ補綴学会会長Carlo Marinello スイス・バーゼル大学教授による特別講演「Do we really need so many implants? A prosthodontist's view」の他、数多くのシンポジウム、セミナーが開催された。本学術大会では臨床家向けのプログラムが多数用意されたことが特徴的であった。また、100名以上の本学学生、臨床研修医が自主的に参加し、真剣な眼差しで講演を聴講する姿が会場内で散見された。また、日本補綴歯科学会が会

員の2割を女性が占めていることもあり、学会場内に託児施設が無料で設置された。これは本学会初の取り組みであり、女性会員のみならず男性会員からも感謝の声が寄せられた。当日は好天にも恵まれ、2,600名を超える参加者を迎え、口頭発表73演題、ポスター発表148演題と様々な面で過去最大の学術大会として盛会のうちに幕を閉じた。



懇親会にて司会を務める佐藤教授：平成24年5月25日(金)、ローズホテル横浜

■日本学術振興会外国人招へい研究者事業(平成23年度採択)の実施報告

平成23年度に採択された日本学術振興会外国人招へい研究者事業(短期)(申請者 薬理学講座 川口 充教授)のプログラムによる特別講演企画が下記のとおり実施された。

この事業は、「外国人研究者を短期間招へいし、我が国の研究者との討議・意見交換・講演等を通じて関係分野の研究の発展に寄与すること」を目的としている。当該プログラムは実施期間14日間(平成24年3月4日(日)から3月17日(土))で、本学客員教授で現在米国NIH診療センター医学研究企画推進部長のBruce J. Baum先生を招へいして実施した。



懇親会にて大会長挨拶をする櫻井教授：平成24年5月25日(金)、ローズホテル横浜



懇親会にて挨拶をする井出学長：平成24年5月25日(金)、ローズホテル横浜



講演されるBaum先生：平成24年3月16日(金)、国立京都国際会館メインホール

本学大学院セミナー（第342回大学院セミナー（広報No.253 p.19））における講演の他、平成24年3月16日（金）第85回日本薬理学会年会での講演は午前11時から1時間、国立京都国際会館メインホールで行われた。この講演のタイトルは「The gene as a drug: exploring the possibilities with salivary glands : 薬物の役割を果たす遺伝子 : 唾液腺応用への可能性を探る」で、会場には、唾液腺とジーントランスファーに興味のある研究者が聴講し、熱心な質疑応答がなされた。講演終了後、

年会会長（京都大学大学院薬学研究科赤池昭紀教授）からの感謝状をオーガナイザーの川口教授が手渡した。

海外研究者招へいプログラムは、国内の研究活性を大いに高めるもので、採択されるには競争が伴う。本学では、Baum先生が平成17年に同じプログラムに採択された経緯があり、今回2度目の公的な招へいとなる。

（薬理学講座 川口 充）

《全講演の開催日・会場・演題》

月 日	講演会場		演 題
3月5日(月)	東京大学医科学研究所	GCOE セミナー	Safety and Efficacy of adenoviral-mediated transfer of the aquaporin-1 gene for treatment of existing radiation-induced salivary hypofunction
3月6日(火)	東京歯科大学歯学部	大学院 セミナー	Gene delivery in salivary glands:from the bench to the clinic.
3月8日(木)	東海大学医学部	東海医学会 講演会	Early responses to adenoviral- mediated transfer of the aquaporin-1 cDNA for radiation-induced salivary hypofunction
3月11日(日) ～13日(火)	北海道医療大学歯学部	個体差研 セミナー	The gene as a drug : exploring the possibilities with salivary glands
3月14日(水) ～16日(金)	第85回日本薬理学会年会 国立京都国際会館	特別講演	The gene as a drug:exploring the possibilities with salivary glands : 薬物の役割を果たす遺伝子 : 唾液腺応用への可能性を探る

学生会ニュース

■学生会主催新入生クラブ紹介開催

平成24年4月21日（土）午後1時より、学生会主催による恒例の新入生オリエンテーションが、さいかち坂校舎大講義室で開催、新入生と編入学生が参加し熱気あふれるオリエンテーションとなった。

初めに、司会者の井上高暢君(4年)より、学生会と東歯祭実行委員の活動内容の説明が行われた。

「入学おめでとうございます。私は3年生の時に東歯祭実行委員長を務め、国際医療研究会にも所属し多くのボランティア活動に積極的に参加して充実した学生生活を送っております。新入生の

皆さんも同じように楽しく充実した学生生活を送っていただきたいと思います。」と挨拶があった。続いて、濱田真衣学生会交流会局長(4年)から延世大学校歯科大学との交流プログラムについての説明があった。

引き続き運動系・文化系それぞれのクラブ・同好会の紹介が行われた。

今年は、さいかち坂校舎で初めてのクラブ紹介だったので勝手がわからずに全て映像を使っただけの勧誘となった。Big Band Jazz部、管弦楽部、MLSは近隣のビルに配慮して演奏を控えても

らった。

クラブ発表は午後5時10分に終了。恒例の呼び出しは、さいかち坂校舎でも引き継がれ、出口には各クラブの先輩が待ち受けており、所属するクラブの名前が呼ばれると大歓声が沸き起こった。今年も大盛況のうちに学生会主催新入生オリエンテーションを終えることができた。



新入生の呼び出しに沸く大教室前：平成24年4月21日（土）、さいかち坂校舎第1講義室

図書館から

■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

阿部伸一[ほか]著 今後の難症例を解決する総義歯補綴臨床のナビゲーション、クインテッセンス出版、2012

亀山敦史[ほか]著 口腔疾患別漢方診療 Handbook, 医歯薬出版, 2012

井上 孝, 松坂賢一[ほか]著 歯科医師とスタッフのための臨床検査：安全な口腔保健・医療に向けて, 医歯薬出版, 2012

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のときには、図書館へ、ご一報くださいますようよろしくお願いいたします。

■さいかち坂校舎図書室オープン

平成24年4月1日(日)のさいかち坂校舎開校に合わせて、図書室もオープンした。図書室は配



さいかち坂校舎図書室入口：平成24年4月5日（木）

架冊数 7,860冊、閲覧席が20席、4～6人収容可能なグループ学習室を2室備えている。スタッフは校舎事務室兼任の1名で学生、教職員の利用者に対応している。4月には教養セミナーのテーマに沿った推薦図書の展示、メールや蔵書検索のための講習会を開催した。また、教養セミナーではグループ学習室が有効に活用された。



さいかち坂校舎図書室グループ学習室、教養セミナー風景：平成24年4月18日（水）



さいかち坂校舎図書室閲覧席、学習風景

■「読みたい論文を最速で入手する！文献検索講習会」(千葉校舎)を開催

春・夏・秋の連続企画として、医中誌Web、PubMedの文献検索データベースを用いた講習会を平成24年5月14日(月)から18日(金)まで、千葉校舎図書館2階グループ学習室、グループ学習室前フリッシュコーナーにて開催した。

今回の講習会は「読みたい論文を最速で入手する！」をキーワードに、データベースを効率よく検索し、図書館で論文を入手するための基本的な方法について、パソコンを使った実習形式で行った。全7回の講習会を行い(要望により期間外にも4回開催)、のべ37名の参加があった。最後に尋ねたアンケートでは参加者全員に「役に立つ」「大変役に立つ」と回答頂き、大変好評のうちに終了した。

<大学史料室から>

■「血脇先生の書」寄贈される

海老原 新先生(東京医科歯科大学 歯髄生物学分野所属)から、海老原家が所蔵していた血脇守之助先生直筆の書の寄贈についてお申し出があり、平成24年3月26日(月)、水道橋校舎で海老原家の御家族3名(海老原 新先生、お母様の麗子様、お姉様の辻 紀子様)から金子 譲理事長、井出吉信学長へ写真のような書が手渡されました。この書は、海老原 新先生の御祖父様(海老原 堅先生：東京歯科大学推薦会員)が血脇先生から直々にいただき、これをお父様の海老原 信先生(東京歯科大学 昭和23年卒)が、ご自宅に大切に飾られて



左より、辻 紀子様、海老原 新先生、海老原麗子様、金子理事長、井出学長：平成24年3月26日(月)、水道橋校舎理事長室

■文献検索講習会開催(市川総合病院)

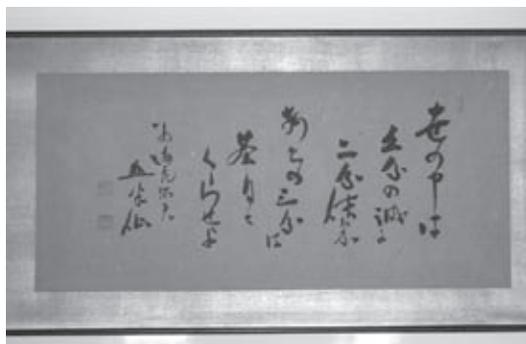
平成24年5月25日(金)午後5時30分から、市川総合病院第2・3会議室において、研修医向けの文献検索講習会を開催した。主要な文献データベースである医中誌とPubMedの講習会だが、今回は新しく入ってきた研修医が対象ということで、特に医中誌に時間をかけた。基本的な検索方法からシソーラスやMeSHを使った検索方法、電子ジャーナルの閲覧方法、図書館OPACでの蔵書検索の方法、学外への文献複写依頼の方法についてなど、実際にパソコンを操作する実習形式で行った。医科・歯科合わせて14人の参加者があり、アンケートでは医中誌・PubMedのより詳しい使い方についての講習会や、Cochrane Library、UpToDateについての講習会を希望する意見が寄せられた。

いたものです。今回、海老原 信先生がお亡くなりになられたため、歴史的に重要な書であるとして本学に寄贈されることが決まりました。

書の内容は「世の中は五分の誠と二分の俠気あとの三分は茶目でくませよ」とあり、私たち大学関係者には大変なじみの深い、ユーモアを交えた温かな言葉であると感じられます。

当日は、この書以外にも明治32年の歯科医術開業試験の貴重な写真等もいただき、金子理事長、井出学長から感謝のご挨拶がなされました。その後、海老原家と東京歯科大学の歴史について和やかな談笑の時間も持たれました。

血脇先生の貴重な書を寄贈いただき、海老原家には大変感謝申し上げます。また、この書を大学



血脇先生の書

史料室に保管させていただき、ご家族の御意志の通り、東京歯科大学の歴史資料として末永く

役立たせていただくことをお約束申し上げます。
(矢島安朝)

歯科衛生士専門学校ニュース

■平成24年度歯科衛生士専門学校入学式

歯科衛生士専門学校第64期生の入学式は、平成24年4月4日(水)午前10時より、千葉校舎講堂において、御来賓、学校関係者、在校生ならびに新生保護者臨席のもとに厳粛な雰囲気なかで挙行された。

杉原直樹学生部長の司会のもと、国歌斉唱に引き続き、高橋俊之副校長から新入生ひとり一人が呼名・起立により紹介され、石井拓男校長から緊張の面持ちで訓辞を受けた。続いて、学校法人東京歯科大学理事長の金子 譲先生、井出吉信東京歯科大学学長ならびに市川明美歯科衛生士専門学校同窓会会長からご祝辞をいただいた。在校生

を代表して3年生の越川恵理子さんが歓迎の辞を、次いで新入生代表の渋谷花純さんが誓詞を述べた。新入生には歯科衛生士専門学校の徽章が校長より授与され、代表の布施舞子さんの襟に輝いた。最後に在校生のリードで出席者全員が校歌を斉唱し、式は滞りなく終了した。

入学式に続き、杉山哲也教務部長から、ご臨席頂いた来賓の方々および教育に携わる教員と職員が紹介された。記念写真撮影の後、新入生たちはこれからの新たな3年間を過ごす教室に入り、学年主任・副主任から学校生活についてのオリエンテーションを受け、入学初日のすべての日程を終了した。



入学式後の集合写真：平成24年4月4日(水)、千葉校舎講堂

訓 辞

東京歯科大学歯科衛生士専門学校
校 長 石井 拓男

本日ここに、東京歯科大学理事長、東京歯科大学学長、東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会長をはじめ、多くのご来賓をお迎えして、平成24年度の入学式を挙行できますことはとても喜ばしいことであります。

新入生の皆さんが、大きな希望と多くの期待を持って入学した本校は、すでにご存知のように東京歯科大学の中にあります。この大学の教授をはじめとする、多くの教員が皆さんの歯科衛生士となるための学習を支援いたします。

また、この大学には三つの病院があります。それぞれの病院にはそれぞれの特徴があり、歯科衛生士となるために特に重要な臨床での学習の場を提供しています。このような、豊富な教員スタッフを持ち、充実した臨床実習施設を持つ学校は全国に160校ほどもある歯科衛生士養成機関の中でもごくわずかであり、本校はその中で最も優れたものであります。

現在、医学的に歯科衛生士が優れた職種であり、種々の疾患に罹った方々の回復に貢献していることが理解されて来ました。それが、我が国の医療提供体制の具体的な制度となって現れてきております。国民の歯科衛生士に対する期待も高まってきております。歯科衛生士が国家資格であるということは、国が国民に向かって、病んだ身を安心して任せて良いとしていることなのです。歯科衛生士の国家試験に合格し、国民の期待と信頼にこたえるためには、学ぶことを本分とする学生としての凛とした厳しい姿勢が望まれます。

本校は、皆さんが自信を持って多くの病んだ人々を支えることができる知識と技能と態度を修得して世に出すようにいたします。

皆さんは、卒業して社会に出たときに、自分たちがいかに素晴らしい学校で学んだのかを実感すると思います。また、本校で得た歯科衛生士としての力を社会に役立てることの喜びを強く感ずることができると思います。そして、困難な道を共に歩んだ、多くの生涯の友を得ることのできた、人としての幸せも実感できると思います。

三年後に、皆さんが歯科衛生士となる自信に溢れた姿でここに立つことを確信いたしまして、私の訓辞といたします。

誓 詞

第64期新入生代表
渋谷 花純

学校長訓辞の意を体して克く学生の本分を尽し、必ず素志を貫徹し、本校の伝統を昂揚するよう努めることを硬く誓約いたします。

■平成24年度 学生会総会ならびに新入生歓迎会

新入生45名を迎え、平成24年度歯科衛生士専門学校学生会総会が平成24年4月28日(土)午前11時30分より、千葉校舎厚生棟1階において開催された。学校からは、石井拓男校長、高橋俊之副校長、杉山哲也教務部長、杉原直樹学生部長が出席した。

学生会会長の綿引美香さんの挨拶のあと、今田ちづる、鈴木あゆみさんの司会進行と報告により、平成23年度活動報告と会計決算が承認され、続いて平成24年度活動計画案と予算案が満場一致で可決承認された。

総会に引き続き、新入生歓迎会が開催され、テーブル一杯の色とりどりの食事をとりながら談笑し、和やかな雰囲気のうちには会は進化した。最後にビンゴゲームで大いに盛り上がり、午後1時に閉会となった。



学生全員が参加しての新入生歓迎会：平成24年4月28日(土)、千葉校舎厚生棟1階

■第1,2学年学外研修セミナー開催

第1学年と第2学年合同の学外研修セミナーが平成24年5月11日(金)、12日(土)に1泊2日の日程で幕張本郷のメイプルイン幕張において行われた。グループディスカッションとその発表を行うことで、問題発見、整理、解決に取り組み、協力し合う態度を身につけ、さらに、学生同士の親睦を深めることを目的として毎年開催している。昨年は、震災の影響で学内研修となったため、学外研修は2年ぶりに行われた。

午前10時30分より開講式がはじまり、石井拓男校長からご挨拶をいただいた。最初のプログラムでは、1,2学年合同のコミュニケーショントレーニングを行った。このプログラムは、グループでの効果的な協同作業のあり方や、1つ1つの情報の重要性を学ぶため、実施している。90分間の短い時間ではあったが、各班協力し、一生懸命取り組んでいた。にぎやかな昼食ののち、「口腔清掃用具に関する調査」に関する報告会を行った。8つのグループに分かれ、歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシ、歯磨剤など、歯科保健指導に用いる身近な口腔清掃用具について、調査結果の発表が行われた。やっと学校生活に慣れはじめたばかりの1年生も、興味深く耳を傾け、質問をする姿も見られた。今年は、プレゼンテーションの他にも自分達で作成した模型を使い報告を行うなど、様々な工夫が見られた。最初のグループディスカッションでは、1年生は「学ぶ意欲や主体性を持つには」、2年生は「歯科衛生士として信頼をもらえるにはどうしたらよいか」をテーマに、学年毎に6班に分かれてKJ法によりディスカッションを行い、その結果をまとめて発表した。その後、夕食のステーキを全員で食べ、一息ついた後、チームごとに6班に分かれ、今度は、1年生は「小学生の携帯電話使用について」、2年生は「未成年者の加害者匿名制度について」をテーマに賛成派と反対派に分かれてディベートを行った。1グループにつき3回の対戦では、熱のこもった弁



ディスカッションの様子：平成24年5月11日(金)、メイプルイン幕張

論と質疑応答が繰り広げられ、夜の9時に研修第1日目の日程を終了した。

2日目、朝7時に全員で朝食を食べた。昨日の疲れを感じさせない元気な顔であった。8時20分から10時50分まで、1,2学年合同のグループで「日本をトップクラスにするためにはどうすればよいかー私達にできることは何かー」をテーマに、KJ法でアイデアを出しながらディスカッションを行い、その結果をまとめて2つの会場に分かれ発表

を行った。1,2学年合同グループの為か、ディスカッションが進まないグループもあったが、それぞれ自分達の結論をしっかりと発表していた。その後閉講式を行い、石井学校長から研修の成果についてご挨拶を頂き、コミュニケーショントレーニングとディベートで優秀な班への表彰式を行った。そして、研修の最後に、全員で校歌を斉唱し、記念に集合写真を撮影し、すべての日程を終了した。



ディベートの様子：平成24年5月11日（金）、メイプルイン幕張



集合写真：平成24年5月12日（土）、メイプルイン幕張

平成 24 年度 学生数一覧

学 年	男	女	計	班分け	欠 番	休学者	
1 年	A	37	29	66	1 A : No. 1 ~ 66 1 B : No. 71 ~ 136		136
	B	39	27	66			
		76	56	132			
2 年	72	70	142	A班 : No. 1 ~ 71 B班 : No. 72 ~ 143	115		
3 年	89	61	150	A班 : No. 1 ~ 74 B班 : No. 75 ~ 150		149 150	
4 年	76	46	122	A班 : No. 1 ~ 61 B班 : No. 62 ~ 122			
5 年	80	51	131	A班 : No. 1 ~ 26 B班 : No. 31 ~ 56 C班 : No. 61 ~ 86 D班 : No. 91 ~ 115 E班 : No. 121 ~ 145	27 ~ 30 57 ~ 60 87 ~ 90 116 ~ 120	40 146 147 148	
6 年	85	62	147		23 35 62 84	151	
合 計	478	346	824				

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

○株式会社バイテック・グローバル・ジャパン (代表取締役1名、職員1名)

平成24年5月22日(火)解剖標本室、史料室見学

○株式会社ライフヘルスケア(代表取締役1名)

平成24年5月22日(火)解剖標本室、史料室見学

■海外出張

○松永 智講師(解剖学)

アルバータ大学ミゼリコルディア病院において顎顔面領域の三次元立体構築および生体力学的研究についての共同研究のため、平成24年4月1日(日)カナダ・エドモントンへ出発。帰国は平成25年3月31日(日)の予定

○片倉 朗教授(市病・オーラル)

台北医学大学国際学術学会での金子理事長の特別講演の随行ならびに奇美病院歯科口腔外科での講義のため、平成24年4月12日(木)から15日(日)まで台湾、台北市・台南市へ出張

○石井武展助教(歯科矯正学)

ハーバード大学歯学部発生生物学講座において頭蓋顎顔面の成長発育のコントロールおよびアンチエージェンに関する共同研究のため、平成24年4月23日(月)アメリカ・ボストンへ出発。帰国は平成25年4月22日(月)の予定

○ピッセン弘子教授(水病・眼科)

アメリカ白内障屈折矯正手術学会ASCRS (American Society of Cataract and Refractive Surgery)において学会口演、座長、会議出席のため、平成24年4月21日(土)から28日(土)までアメリカ、シカゴ・ヒューストンへ出張

○井上 孝教授(臨床検査病理学)

日中歯科医学大会2012に準備委員会委員長として参加するため平成24年4月24日(火)から29日(日)まで中国・成都へ出張

○吉成正雄教授(歯科理工学・HRC口腔インプラント学研究部門)

日中歯科医学大会2012において発表を行うため、平成24年4月26日(木)から29日(日)まで中国・成都へ出張

○阿部伸一教授(解剖学)

日中歯科医学大会2012において発表を行うため、平成24年4月25日(水)から29日(日)まで中国・成都へ出張

○三浦 直准教授(口腔科学研究センター)

日中歯科医学大会2012において演題発表を行うため、平成24年4月25日(水)から29日(日)まで中国・成都へ出張

○野嶋邦彦講師(歯科矯正学)

日中歯科医学大会2012において演題発表を行うため、平成24年4月25日(水)から30日(月)まで中国・成都へ出張

○木下英明助教(解剖学)

日中歯科医学大会2012において発表を行うため、平成24年4月25日(水)から29日(日)まで中国・成都へ出張

○岡田晶子助教(生化学)

日中歯科医学大会2012において演題発表を行うため、平成24年4月26日(木)から29日(日)まで中国・成都へ出張

○橋本和彦助教(臨床検査病理学)

日中歯科医学大会2012において演題発表を行うため、平成24年4月25日(水)から29日(日)まで中国・成都へ出張

○田辺耕士ポストドクトラルフェロー(口腔科学研究センター)

日中歯科医学大会2012において演題発表を行うため、平成24年4月25日(水)から29日(日)まで中国・成都へ出張

○岸 飛鳥大学院生(解剖学)

日中歯科医学大会2012において演題発表を行うため、平成24年4月25日(水)から29日(日)まで中国・成都へ出張

○菊地昭仁大学院生(解剖学)

日中歯科医学大会2012において演題発表を行うため、平成24年4月25日(水)から29日(日)まで中国・成都へ出張

○中尾 正大学院生(解剖学)

日中歯科医学大会2012において演題発表を行うため、平成24年4月25日(水)から29日(日)まで中国・成都へ出張

○佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴学)

The 28th Annual AACD (American Academy of Cosmetic Dentistry)での会議、ポスター発表および学会参加のため平成24年5月2日(水)から7日(月)までアメリカ・ワシントンDCへ出張

○金子 綾レジデント(歯科矯正学)

American Association of Orthodontics 112th Annual Session Honolulu,Hawaii,USAにおいて発

表のため平成24年5月3日(木)から10日(木)までアメリカ・ハワイへ出張

○永野俊介レジデント(歯科矯正学)

American Association of Orthodontics 112th Annual Session Honolulu,Hawaii,USAにおいて発表のため平成24年5月3日(木)から10日(木)までアメリカ・ハワイへ出張

○安村敏彦大学院生(歯科矯正学)

American Association of Orthodontics 112th Annual Session Honolulu,Hawaii,USAにおいて発表のため平成24年5月3日(木)から10日(木)までアメリカ・ハワイへ出張

○有泉 大大学院生(歯科矯正学)

American Association of Orthodontics 112th Annual Session Honolulu,Hawaii,USAにおいて発表のため平成24年5月3日(木)から10日(木)までアメリカ・ハワイへ出張

○永田順也大学院生(歯科矯正学)

American Association of Orthodontics 112th Annual Session Honolulu,Hawaii,USAにおいて発表のため平成24年5月3日(木)から10日(木)までアメリカ・ハワイへ出張

○田鶴濱泰子レジデント(水病・矯正歯科)

American Association of Orthodontics 112th Annual Session Honolulu,Hawaii,USAにおいて発表のため平成24年5月3日(木)から10日(木)までアメリカ・ハワイへ出張

○岩田直晃レジデント(水病・矯正歯科)

American Association of Orthodontics 112th Annual Session Honolulu,Hawaii,USAに参加のため平成24年5月3日(木)から10日(木)までアメリカ・ハワイへ出張

○内山健志教授(口腔外科学)

7th Biennial World Congress (CLEFT 2012 ICPF) においてInvited Speaker およびPre-Conference Live Surgical workshopにSurgeonとして参加のため平成24年5月5日(土)から5月13日(日)までドバイ・セイシェル共和国へ出張

○坂本輝雄講師(歯科矯正学)

7th Biennial World Congress (CLEFT 2012 ICPF) に参加および発表のため平成24年5月5日(土)から5月13日(日)までドバイ・セイシェル共和国へ出張

○佐竹良之講師(水病・眼科)

ARVO 2012 (The Association for Research in Vision and Ophthalmology) に参加、発表のため平成24年5月5日(土)から10日(木)までアメリカ・

フォートローダーデールへ出張

○平沢 学助教(水病・眼科)

ARVO 2012(The Association for Research in Vision and Ophthalmology)に参加、発表のため平成24年5月5日(土)から12日(土)までアメリカ・フォートローダーデールへ出張

○矢島安朝教授(口腔インプラント学)

アストラワールドコンgresの特別講演演者のため平成24年5月9日(水)から14日(月)までスウェーデン・イエテボリへ出張

○三好 潤助教(水病)

Digestive Disease Week 2012に参加、発表のため平成24年5月19日(土)から23日(水)まで、アメリカ・サンディエゴへ出張

○中鉢正太郎助教(水病・内科)

ATS 2012 INTERNATIONAL CONFERENCEにて発表のため平成24年5月19日(土)から25日(金)までアメリカ・サンフランシスコへ出張

○新谷誠康教授(小児歯科学)

第8回アジア小児歯科学会出席のため平成24年5月23日(水)から27日(日)まで、インドネシア・バリへ出張

○桜井敦朗助教(小児歯科学)

第8回アジア小児歯科学会出席のため平成24年5月23日(水)から27日(日)まで、インドネシア・バリへ出張

○高橋直子レジデント(小児歯科学)

第8回アジア小児歯科学会出席、発表のため平成24年5月23日(水)から27日(日)まで、インドネシア・バリへ出張

○白石 建教授(水病・整形外科)

第28回ヨーロッパ頰椎学会 (SPINE WEEK 2012) に参加、発表のため平成24年5月26日(土)から6月3日(日)までオランダ・アムステルダムへ出張

○青山龍馬助教(水病・整形外科)

第28回ヨーロッパ頰椎学会 (SPINE WEEK 2012) に参加、発表のため平成24年5月26日(土)から6月3日(日)までオランダ・アムステルダムへ出張

○山根淳一助教(水病・整形外科)

第28回ヨーロッパ頰椎学会 (SPINE WEEK 2012) に参加、発表のため平成24年5月26日(土)から6月3日(日)までオランダ・アムステルダムへ出張

○吉成正雄教授(歯科理工学・HRC口腔インプラント学研究部門)

9th World Biomaterials Congress (WBC) への参加、発表のため平成24年5月31日(木)から6月7日(木)まで中国・成都へ出張

大学日誌

平成24年4月

- | | | | |
|--------|--|--------|---|
| 1 (日) | 1年生オリエンテーション[於:さいかち坂校舎] | 10 (火) | 歯科衛生士専門学校教員会 |
| 2 (月) | 5年生(119期)オリエンテーション
レジデント辞令交付式
専任教員(准教授以下)辞令交付式
RR・PF・RA・TA辞令交付式
5年生(119期)登院式
5年生(119期)登院器材刻印・検査
歯科臨床研修開始式
臨床研修管理小部会
防火・防災安全自主点検日
平成24年度看護部新採用者オリエンテーション[～7日](市病)
採用者辞令交付式(市病)
辞令交付(水病)
臨床専門専修科生全体集合(水病)
歯科医師臨床研修開始式(水病) | 11 (水) | 大学院運営委員会
大学院研究科委員会
看護部運営会議(市病)
救急委員会(市病)
ICU運営委員会(市病)
リスクマネージメント部会(水病)
薬事委員会(水病)
医療機器安全管理委員会(水病) |
| 4 (水) | リスクマネージメント部会
ICT会議
歯科衛生士専門学校入学式
口腔健康臨床科学講座会(水病) | 12 (木) | カルテ指導委員会
千葉校舎課長会
業務連絡会
高度・先進医療委員会
手術室運営委員会(市病) |
| 5 (木) | 平成24年度入学式
歯科衛生士専門学校2年生前期授業開始
歯科衛生士専門学校1年生オリエンテーション[～6日]
感染制御委員会(市病) | 13 (金) | 第343回大学院セミナー
ICT委員会(市病)
感染予防対策チーム委員会(水病) |
| 6 (金) | 1年生オリエンテーション[於:さいかち坂校舎]
2・3・4年生オリエンテーション | 14 (土) | 停電[一般系](市病) |
| 7 (土) | 臨床実習中の効果的なカリキュラム作成・実施の為のワークショップ[～4/8] | 16 (月) | 医療連携委員会
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
診療録管理委員会(市病) |
| 9 (月) | 1・2・3・4年生前期授業開始
大学院歯科研究科入学式
病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
第8回補助金管理運営会議
臨床教育委員会
医局長会
医療安全研修会
歯科衛生士専門学校1年生前期授業開始 | 17 (火) | 教養科目協議会[於:さいかち坂校舎]
医療安全管理委員会(市病)
給食委員会(水病) |
| 10 (火) | 臨床修練委員会
臨床教授連絡会
全体教授会
人事委員会
教授懇親会 | 18 (水) | 褥瘡対策委員会(市病)
CPC(市病) |
| | | 19 (木) | 部長会(市病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
医療連携プロジェクト委員会(水病)
科長会(水病) |
| | | 20 (金) | 機器等安全自主点検日 |
| | | 21 (土) | CBTを利用した国試の現状把握[於:水道橋校舎]
学生会主催新入生オリエンテーション[於:さいかち坂校舎]
患者サロン(市病) |
| | | 23 (月) | 第112回歯科医学教育セミナー
NSTカンファレンス(市病)
教職員研修会(水病) |
| | | 24 (火) | 薬事委員会
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
医療サービスに関する検討会
情報システム管理委員会 |

- | | |
|--|---|
| <p>25 (水) 看護部運営会議(市病)
糖尿病ケアチームカンファレンス
(市病)
衛生委員会(水病)
データ管理者会議(水病)
病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病)</p> <p>26 (木) 第344回大学院セミナー
管理診療委員会(市病)</p> <p>27 (金) 災害対策実施部会(市病)</p> <p>28 (土) CBTを利用した国試の現状把握[於:水道
橋校舎]
停電[非常系](市病)</p> <p>平成24年5月</p> <p>1 (火) 1～4年生休講日[～2日]
医療サービスに関する検討会
教育WS作業部会『水道橋移転に伴うコ
ミュニケーション学の検討』
『学生サポート体制の構築』
防火・防災安全自主点検日
監査法人会計監査[～8日](市病)</p> <p>2 (水) リスクマネジメント部会
ICT会議
口腔健康臨床科学講座会(水病)</p> <p>7 (月) 臨床研修管理小部会</p> <p>8 (火) 薬事委員会(市病)</p> <p>9 (水) 大学院新入生学外総合セミナー [～11日]
公認会計士監査[～14日]
リスクマネジメント部会(水病)
薬事委員会(水病)
臨床検査室委員会(水病)
医療機器安全管理委員会(水病)</p> <p>10 (木) カルテ指導委員会
感染制御委員会(市病)
手術室運営委員会(市病)</p> <p>11 (金) 電気設備法定検査-停電(研究資料棟)
(講堂)
歯科衛生士専門学校1・2年生学外研修
セミナー [～12日]
ICLS (市病)
ICT委員会(市病)
感染予防対策チーム委員会(水病)</p> <p>12 (土) 電気設備法定検査-停電(教養棟、実験動
物施設、研究資料棟)(厚生棟、図書館、
体育館、部室合宿棟)
停電[一般系:北棟、放射線・リプロ、角
膜](市病)</p> <p>13 (日) 電気設備法定検査-停電(全館)</p> <p>14 (月) 病院運営会議
個人情報保護委員会</p> | <p>14 (月) 医療安全管理委員会
感染予防対策委員会
臨床教育委員会
医局長会
医療安全研修会・個人情報の保護に関す
る研修会
地域連携委員会(市病)
TDC NET利用者講習会(市病)
教職員健康診断(第1日目)(水病)</p> <p>15 (火) 臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
医療安全管理委員会(市病)
公認会計士監査[～23日](水病)
教職員健康診断(第2日目)(水病)</p> <p>16 (水) 基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
衛生委員会
輸血療法委員会(市病)
褥瘡対策委員会(市病)
CPC (市病)</p> <p>17 (木) 千葉校舎課長会
業務連絡会
第345回大学院セミナー
高度・先進医療委員会
部長会(市病)
診療録指導委員会(水病)
水道橋病院症例報告会(水病)</p> <p>18 (金) 図書委員会</p> <p>19 (土) 患者サロン(市病)</p> <p>21 (月) 医療連携委員会
機器等安全自主点検日
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
医療連携プロジェクト委員会(水病)
科長会(水病)</p> <p>22 (火) 5・6年生健康診断
学生部(課)事務連絡会
「医学研究に関する倫理」講習会(第1日目)
(テレビ会議システムにて市病・水病へ配信)</p> <p>23 (水) 「医学研究に関する倫理」講習会(第2日目)
(テレビ会議システムにて市病・水病へ配信)
糖尿病ケアチームカンファレンス(市病)</p> <p>24 (木) 4年生健康診断
第346回大学院セミナー
教養科目協議会 [於:さいかち坂校舎]</p> |
|--|---|

- | | |
|--|---|
| 24 (木) 管理診療委員会(市病)
平成24年度第1回研修管理委員会・
協力型研修施設説明会(群内マッチング)
(水病) | 28 (月) NSTカンファレンス(市病)
衛生委員会(水病)
データ管理者会議(水病)
病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病) |
| 25 (金) クリニカルパス委員会(市病)
災害対策実施部会(市病) | 29 (火) データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会 |
| 26 (土) 市病フォーラム第16回市民公開講演会
(市病)
第2回水道橋病院カルテ記載に関する
ワークショップ(水病) | 30 (水) 教務部(課)事務連絡会
理事会(法人)
評議員会(法人) |
| 28 (月) 平成24年度定期健康診断実施[～6/1]
第113回歯科医学教育セミナー
電子カルテシステム運用管理委員会(市病) | 31 (木) 第347回大学院セミナー |

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充（委員長）

石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田 啓 狩野龍二 椎名 裕
 新谷益朗 高橋俊之 武本 桂 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 古澤成博
 前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹
 （平成24年5月現在）



編集後記

2012年4月9日。神田駿河台のさいかち坂の上に建つ真新しい校舎で、123期生128名の授業が始まりました。千葉から水道橋への初めの一步。学生達にとっても教職員にとっても、すべてが新しいスタートです。

「歯科医師たる前に人間たれ」の建学の精神のもと、東京歯科大学が歩んできた道。芝区・伊皿子町にはじまり、神田・小川町から、水道橋畔の神田・三崎町へ。

時がながれ、かつての市川・菅野の桃色の進学課程はなくなり、ポプラ並木の広いグラウンドには、地域の中核となる570床の市川総合病院が建っています。水道橋駅前にあった重厚な古い煉瓦造りの建物は取り壊され、イタリア産大理石で飾られた水道橋(TDC)ビルディングに変わり、今、その水道橋病院では大改修が急ピッチで進んでいます。

そして、千葉市・真砂の千葉校舎では、広大な緑のキャンパスの中に建った瀟灑な教養課程の最後を締めくくるべく、122期生たちが、勉強に、クラブ部活動に汗を流しています。

東京歯科大学の歴史は、ふたたび、三崎町と神田駿河台へと軸足を大きく動かしはじめました。

将来の東京歯科大学、そして、歯科界を支えているに違いない30年後の彼らは、教養課程の2年間を過ごしたこの校舎とさいかち坂の地を、いったいどんな思いでみるのでしょうか…。

新入生の授業が始まり、先輩達のない校舎で、綿々と受け継がれてきた東京歯科大学の校風がどう伝わっていくのか、ちょっぴり気になりました。しかし、一コマ一コマの講義、担任や教員・事務の人たちとの何気ない関わりの中、新入生達が参加するクラブ活動を通じて、目には見えないけれど、少しずつ、ゆっくと波が広がるように、120年の東京歯科大学の伝統が浸透していきます。心配することは無いのですね。

（広報・公開講座部長：橋本貞充）



「123期のなかま達。これからの6年間のはじめの一步。」

4月。みんな、初めは硬いけれど、ちょっと繋がれば、ひとり一人に素敵な笑顔がこぼれます。6年間の道のりは、ひとりぼっちじゃとても無理だけれど、123期の同じ仲間同士なら、チームワークで乗り切ることがきっとできると信じて…。

こちらも、人生の大切な、初めの一步に違いありません。さいかち坂校舎と一緒に歳を重ねていく、同期の仲間たちです。